

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	019300072		
法人名	株式会社すまいるふらの		
事業所名	ごりょうの丘グループホーム 菜の花ユニット		
所在地	富良野市字下御料		
自己評価作成日	令和2年11月16日	評価結果市町村受理日	令和3年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193000072-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様、個々の思いや考えを大切にしたケアに重点を置くよう配慮を行っている。 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、面会や外出を控えていることから、地域との交流などあらゆる活動が停滞している。利用者様の心身機能の低下に留意して、グループホーム内のできる活動を中心に、利用者個々の趣味や嗜好に合わせた取り組みを実施して、維持に努めている。法人全体として小規模多機能ホーム、有料老人ホームを併設していることから、利用者様の生活を様々な角度から支援できる体制を整え、各事業所の管理者等の連携を図り情報共有に努めている。また、今年度はICT化を進めて現場スタッフの生産性向上にも努め、利用者様と直接関わる時間を増やすための取り組みを開始した。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

富良野市の景色の良い丘陵に位置する2階建て2ユニットのグループホームである。近くにはスキー場や大きな公園、ホテルなどがある。広い敷地に同一法人が運営する関連施設があり、小規模多機能事業所や地域交流スペースは当グループホームと自由に行き来ができる。香りのよいヒバの浴槽や昔懐かしい土間、畳の部屋、ベランダなどがあり、居間の調度品も落ち着いた色彩である。地域交流の面では感染症の流行により今は高校生やボランティアの来訪にとどまっているが、以前は盆踊りや運動会などの行事に参加したり、隣接建物の地域交流館や中庭で子供達や住民との交流があり、活発な交流ができる下地がある。ケアマネジメントの面では本人の思いや意向を把握するため「その人らしさシート」「元気の素シート」を作成し、日々の介護や介護計画の見直しに活かしている。医療や看取り支援の面では、常勤の看護師を配置して健康管理を行い、利用者や家族の希望に沿い看取りも行っている。入浴支援の面では日曜日以外の午前・午後に入浴でき、入浴回数や同性介助の希望にも合わせている。最近では利用者が家族とオンライン面会ができる環境を整えた。居心地のよい雰囲気のもと、いきいきと過ごすことができるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修において介護保険上の地域密着型サービスの意義(グループホームとは)について学び、法人理念は名札の裏に記載、ホーム理念は見えるところに掲示して意識づけしている。	「地域福祉に貢献する」という文言を含む4項目の法人理念の他に事業所独自の年度目標をつくり、共用空間に掲示し会議の際に理念や目標を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため外部(地域など)と直接的なつながりは持てなかった。運営推進会議で交流を持った程度。	感染症流行前は盆踊りや運動会などの行事に参加したり、隣接建物の地域交流館や中庭で子供達や住民との交流があった。現在は高校生やボランティアの来訪にとどまっているが、徐々に交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動も自粛により中止されていることから今年度の取り組みはなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文書で通知の他、計画作成担当者から直接ご案内の連絡を入れるなど積極的に参加を促した。今年度は書面会議も取り入れたり、参加者からの意見により、地域参加と家族参加を分けて実施する取り組みも行った。	市役所職員、連合町内会長、民生委員、利用者家族の参加を得て2か月ごとに会議を開催している。家族交流や感染症対策をテーマとしているが、活動報告が中心となっている。議事録を家族に送付している。	報告事項の他に会議のテーマを計画的に設定し、テーマに関する簡単な資料を用意して活発な意見交換がなされるよう取り組みを期待したい。また、家族へのさらなる参加の呼びかけを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大防止のため会議が少なかったものの、参加することはできた。運営推進会議を通じて情報共有を図ったり、意見交換を行ったりしている。	運営推進会議に市役所担当者の参加があり、情報提供を受けている。市とはいつでも気軽に相談できる関係を築いており、最近では主に感染症対策について助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの取り組みに向けては、委員会での情報共有の他、部署会議において全職員と勉強会を行って理解を深めている。	身体拘束を行っておらず、年4回の身体拘束廃止委員会と、年2回以上の勉強会を行っている。今後、勉強会の資料や開催記録を見やすく整理する意向である。出入り口が多く、日中も鍵をかけているが利用者でも中から簡単に開けることのできる鍵で閉塞感はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて、虐待防止の徹底に向けての取り組みも行っている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	富良野市が実施している「権利擁護センター」についてパンフレットで個々に学びを深めた。また、必要に応じて専門家に相談を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者ならびに介護支援専門員や看護師も同席して、十分な説明を行い不安を払拭できるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画作成担当者、看護師等が利用者・家族等に電話や面談の機会を設け意見を聞くよう努めている。また、管理者等の実務会議において情報共有し運営に反映させている。	家族がオンライン面会で利用者と会うことができるようにしている。常駐の看護師から家族に電話し、健康状態や様子を知らせている。ホーム便りも毎月発行している。家族の意見をパソコンに記録し、共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、職員面談を行ったり、変化が見られた職員については随時話を聞く機会を設けている。また、職員提案は企画書を作成の上、出来る限り運営に反映させている。	毎月、事業所の全体会議を行い、活発に意見交換している。管理者は職員と年1回以上、個別に面談している。また、職員は行事、食材管理、備品管理、お便り作成、ICT推進などを分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課測定シートを活用して、年1回以上面談を行っている。また、体調不良等による休暇が続いた場合は法人内で人事異動を行うなど労働環境に配慮する努力を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、現任研修を定期的に行っている。マニュアルの整備を行うとともに、職員個々の能力に合わせた指導を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため自粛により実施できず。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族等に入居前や入居時に「生活に対する要望等」を必ず聞き取りして、シート（元気の素）に落とし込み職員間で情報共有し、良好な関係性が保てるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時よりヒアリングを行い、入居時にも面談や電話連絡などにより経過の確認や、現状の確認を行い対応等について随時相談を行うことで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居して概ね2週間はアセスメントに努め、カンファレンスを実施して、利用者や家族等が必要としている支援についての見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護保険制度の目的達成に向けて、一方的な関係ではなく、「自己決定や生活の質の維持」に向けて、利用者の有する能力を見極め、暮らしを共にする者としての意識を持って支援するよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前から保たれていた利用者と家族等の関係をできるだけ維持できるよう、家族の絆を大切にしながら、介護負担の軽減を図り、家族も主体的となって利用者を支えていけるよう支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動に制限はあるものの、オンラインの活用などによりこれまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	感染症流行のため知人の来訪を制限しているが、電話や手紙、贈り物などのやり取りがスムーズにできるよう支援している。感染症流行前は、床屋や美容室、中華料理店、菊の展示会など好きな場所に出かけており、感染症収束後は再開したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的な関わりの中で利用者同士の人間関係に配慮しつつ、同じ出身利用者同士の交流を行ったり、良好な関係が築けるようきっかけづくりに努めている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談等があれば応じるなど、関係性を大切にした支援に努めている。また、終了時には行先に対し、積極的に情報提供を行い、その後の生活に困らないよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの暮らしを継続できるよう、日常的な関わりの中で利用者本人の言動や様子等から推察する等して暮らしの希望や意向の把握に努めている。	4割ほどの方が言葉で思いや意向を表出でき、難しい方も表情や過去の経験から把握している。「その人らしきシート」「元気の素シート」などにより、本人の希望をきめ細かく把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談等での聞き取りや、日常生活の中で聞き取りを行い、プラン変更時には必ずアセスメントシートを更新して情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子は介護記録に残し、通院報告書は看護師が記載、生活機能についてPTとも連携をする等、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を大切にして、家族や関係機関とも話し合いながら課題分析を行っている。モニタリングは各担当職員が行うことで、チームとしての関わりを持ち、現状に即した計画書作成に当たっている。	モニタリングとカンファレンスを経て介護計画を概ね6か月ごとに更新しているが、モニタリングシートは目標の達成度合いがやや分かりづらい。日々の記録をタブレット端末で行っているが、目標項目の実践記録は十分といえない。	目標の達成度合いや、継続・変更の理由が分かりやすいモニタリングシートの作成を期待したい。日々の記録は、目標項目を意識しながら実践内容や気づきを記録する工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務マニュアルと共にライフサポートプランにおける24時間シート、計画書ファイルを確認しながらケアの実践、記録の作成と情報共有を行い、計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者本位の視点を持ち、多職種連携の下、グループホームとしての機能を最大限発揮できるよう柔軟に対応する努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは地域との交流を大切にして豊かな暮らしの実現を図ってきたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動が自粛されている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を尊重しながら、看護師が十分話し合いを行った上で、適切な医療を受けられるよう支援している。	7名の方に月1回の協力医の往診があり、その他の通院は家族または事業所が送迎している。受診結果をパソコン上に記録し、共有している。また、常駐の看護師が健康管理を行っている。	

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に介護職員と看護師が密に連携を図り、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、入院中の必要な支援(洗濯など)や面会を行っている。また早期退院や受け入れ態勢の準備に向けて入院先の関係者と情報交換等を積極的に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族等の意向を確認し、重度化や終末期ケアの必要性を予測した場合には早い段階から今後の方針について話し合いの場を設け、本人や家族等とグループホームや医療機関等と共通の認識の中で支援が行えるよう努めている。	利用開始時に、重度化した場合の対応指針を説明して同意を得ている。ここ2年間で3名の看取りを看護師の助言を得ながら行い、今後も希望に応じて事業所のできる範囲で対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常駐している看護師が介護職員に対し、日常のケアにおける留意点の指導を行い予防に努めている。急変や事故発生時に備えて勉強会を行う他、24時間オンコール対応に当たっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害避難訓練を実施する他、今年度は抜き打ち訓練を実施したことで、職員の危機意識の醸成に当たった。地域とも連携協定を結び協力体制を築いている。	年2回、昼と夜を想定した避難訓練を実施し、消防や地域住民の協力も得ている。職員の救急救命訓練を行い、災害時に必要な備蓄品を用意している。地震時や災害発生時のケア場面別の対応についての話し合いも行う予定としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部署会議において、「接遇」と「言葉の暴力」について学ぶ他、新人教育時には排泄などプライバシーに配慮した対応についても学ぶ機会を設けている。	接遇研修を実施し、不適切な声かけや対応があればその都度指導している。個人情報パソコンで管理し、申し送りも利用者に聞こえないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に、職員が一方的な決定をするのではなく、個々の能力に合わせて自己決定できるようコミュニケーションを図り活動に活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「これまでの暮らし(入居前、元気だった頃)やその人らしさ」を大切にしたい関わりを持つよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の習慣や意向等に合わせた形で、身だしなみに対する支援を行っている。ご本人の好みの服、お化粧なども配慮している。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭で行われる行事や、個々の好みに合わせて利用者のリクエストを取り入れながら献立を考えている。個々の能力に応じて、食事作りや盛り付け、配下膳、食器洗いや茶わん拭きなど日々実施している。	利用者の好みを入れながら、昼食の献立は職員が作成している。利用者は調理や下拵えに参加したり、ホットケーキや焼きそばと一緒に作っている。行事食を楽しんだり、寿司やピザ、蕎麦などの出前を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録や申し送りにて利用者個々の食事や水分量を把握し、必要な支援を行っている。習慣に応じた代替え食や飲み物の提供により体調不良を引き起こさないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔の他、肺炎の予防のためにも食後の口腔ケアは必ず行っている。必要に応じて歯科往診を受け、歯科衛生士より口腔ケアについて個別援助方法の指導を職員が受けて、日々のケアに活かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録の記入を徹底し、排尿排便ともにパターンを把握して、予測を立ててトイレへの誘導を個別に行っている。	自立している利用者も多いが、全員の排泄をパソコンで管理している。離れた場所や小声で声かけを行い、昼夜共にトイレでの排泄を支援している。身体状況に応じて夜間のみポータブルトイレを使用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫では、野菜や果物、乳製品を取り入れた献立を行い、水分量のチェックも行っている。利用者個々の体調等にも合わせ、看護と連携を図りながら便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者個々の希望と体調等を考慮して、全利用者が入浴を楽しめるように支援をしている。また入浴中の事故や急変等が起きないように個々に沿った支援を実施。	浴室にはヒバの浴槽があり、リラックスして入浴できる造りになっている。日曜日以外の午前と午後で週2～3回の入浴を支援している。利用者のタイミングや湯加減などに配慮し、楽しく入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の習慣や身体状況等を日々の関りの中で観察して、日中に活動と休息を入れることで、夜間、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に看護師が薬に関する情報を介護職員に引き継ぎ、通院報告書等に情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に合わせて、馴染みの習慣を参考に、できることを見極めて支援している。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、自粛が多く、外出はほとんどかなわなかったが、花見などドライブには出かけた。	天候に応じて敷地内を散歩したり、畑の野菜や花壇を見ながら可能な限り外気に触れる機会をつくっている。季節に応じて少人数で近隣へのお花見や紅葉見学に出かけたり、冬季は受診で外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の能力に合わせて、お金を使うことへの支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の意向を確認しながら、電話連絡や手紙のやり取りへの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境(物的・人的)が利用者個々に与える影響を十分に理解し、ソファで眠れるくらいゆったりとした居心地の良いリビングになるよう配慮している。温度や湿度の調節、テレビの音量、移動しやすい広さの確保、職員の利用者への関りなどに工夫している。	居間は明るく開放感のある造りで、花や観葉植物もあり落ちついた温かな雰囲気になっている。室内の窓から託児所の子供たちが遊ぶ姿や敷地内の動物を見ることができる。壁には行事の写真や絵画、カレンダーなどが掲示されている。絵馬など、季節に応じて利用者と一緒に作品をつくり季節感のある装飾を施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等、共用空間とは別に、利用者個々に気の合う方と過ごせるような空間を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に「持ち物リスト」をお渡しして、その目的等も十分に説明した上で、馴染みの物を居室にお持ち頂くようお願いをして、心地よく過ごせるよう工夫している。	居室にはクローゼットと洗面台が備え付けられている。壁には家族の写真や書初めなど自分の作品を飾り、その人らしい落ち着いた室内になっている。目覚まし時計や家具類など、自分の好きな物を持ち込んで居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自立した生活を送れるように、環境面に関して視覚的に働きかける工夫と安全性を保てる配慮を行い、個々の能力に応じて支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	019300072		
法人名	株式会社すまいるふらの		
事業所名	ごりょうの丘グループホーム イチョウユニット		
所在地	富良野市字下御料		
自己評価作成日	令和2年11月16日	評価結果市町村受理日	令和3年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193000072-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様、個々の思いや考えを大切にしたケアに重点を置くよう配慮を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、面会や外出を控えていることから、地域との交流などあらゆる活動が停滞している。利用者様の心身機能の低下に留意して、グループホーム内のできる活動を中心に、利用者個々の趣味や嗜好に合わせた取り組みを実施して、維持に努めている。法人全体として小規模多機能ホーム、有料老人ホームを併設していることから、利用者様の生活を様々な角度から支援できる体制を整え、各事業所の管理者等の連携を図り情報共有に努めている。また、今年度はICT化を進めて現場スタッフの生産性向上にも努め、利用者様と直接関わる時間を増やすための取り組みを開始した。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修において介護保険上の地域密着型サービスの意義(グループホームとは)について学び、法人理念は名札の裏に記載、ホーム理念は見えるところに掲示して意識づけしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため外部(地域など)と直接的なつながりは持てなかった。運営推進会議で交流を持った程度。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動も自粛により中止されていることから今年度の取り組みはなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文書で通知の他、計画作成担当者から直接ご案内の連絡を入れるなど積極的に参加を促した。今年度は書面会議も取り入れたり、参加者からの意見により、地域参加と家族参加を分けて実施する取り組みも行った。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大防止のため会議が少なかったものの、参加することはできた。運営推進会議を通じて情報共有を図ったり、意見交換を行ったりしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの取り組みに向けては、委員会での情報共有の他、部署会議において全職員と勉強会を行って理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて、虐待防止の徹底に向けての取り組みも行っている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	富良野市が実施している「権利擁護センター」についてパンフレットで個々に学びを深めた。また、必要に応じて専門家に相談を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者ならびに介護支援専門員や看護師も同席して、十分な説明を行い不安を払拭できるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画作成担当者、看護師等が利用者・家族等に電話や面談の機会を設け意見を聞くよう努めている。また、管理者等の実務会議において情報共有し運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、職員面談を行ったり、変化が見られた職員については随時話を聞く機会を設けている。また、職員提案は企画書を作成の上、出来る限り運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課測定シートを活用して、年1回以上面談を行っている。また、体調不良等による休暇が続いた場合は法人内で人事異動を行うなど労働環境に配慮する努力を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、現任研修を定期的に行っている。マニュアルの整備を行うとともに、職員個々の能力に合わせた指導を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため自粛により実施できず。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族等に入居前や入居時に「生活に対する要望等」を必ず聞き取りして、シート(元気の素)に落とし込み職員間で情報共有し、良好な関係性が保てるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時よりヒアリングを行い、入居時にも面談や電話連絡などにより経過の確認や、現状の確認を行い対応等について随時相談を行うことで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居して概ね2週間はアセスメントに努め、カンファレンスを実施して、利用者や家族等が必要としている支援についての見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護保険制度の目的達成に向けて、一方的な関係ではなく、「自己決定や生活の質の維持」に向けて、利用者の有する能力を見極め、暮らしを共にする者としての意識を持って支援するよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前から保たれていた利用者と家族等の関係をできるだけ維持できるよう、家族の絆を大切にしながら、介護負担の軽減を図り、家族も主体的となって利用者を支えていけるよう支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動に制限はあるものの、オンラインの活用などによりこれまでの関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的な関わりの中で利用者同士の人間関係に配慮しつつ、同じ出身利用者同士の交流を行ったり、良好な関係が築けるようきっかけづくりに努めている。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談等があれば応じるなど、関係性を大切にした支援に努めている。また、終了時には行先に対し、積極的に情報提供を行い、その後の生活に困らないよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの暮らしを継続できるよう、日常的な関わりの中で利用者本人の言動や様子等から推察する等して暮らしの希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談等での聞き取りや、日常生活の中で聞き取りを行い、プラン変更時には必ずアセスメントシートを更新して情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子は介護記録に残し、通院報告書は看護師が記載、生活機能についてPTとも連携をする等、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を大切にして、家族や関係機関とも話し合いながら課題分析を行っている。モニタリングは各担当職員が行うことで、チームとしての関わりを持ち、現状に即した計画書作成に当たっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務マニュアルと共にライフサポートプランにおける24時間シート、計画書ファイルを確認しながらケアの実践、記録の作成と情報共有を行い、計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者本位の視点を持ち、多職種連携の下、グループホームとしての機能を最大限発揮できるよう柔軟に対応する努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは地域との交流を大切にして豊かな暮らしの実現を図ってきたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動が自粛されている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を尊重しながら、看護師が十分話し合いを行った上で、適切な医療を受けられるよう支援している。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に介護職員と看護師が密に連携を図り、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、入院中の必要な支援(洗濯など)や面会を行っている。また早期退院や受け入れ態勢の準備に向けて入院先の関係者と情報交換等を積極的に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族等の意向を確認し、重度化や終末期ケアの必要性を予測した場合には早い段階から今後の方針について話し合いの場を設け、本人や家族等とグループホームや医療機関等と共通の認識の中で支援が行えるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常駐している看護師が介護職員に対し、日常のケアにおける留意点の指導を行い予防に努めている。急変や事故発生時に備えて勉強会を行う他、24時間オンコール対応に当たっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害避難訓練を実施する他、今年度は抜き打ち訓練を実施したことで、職員の危機意識の醸成に当たった。地域とも連携協定を結び協力体制を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部署会議において、「接遇」と「言葉の暴力」について学ぶ他、新人教育時には排泄などプライバシーに配慮した対応についても学ぶ機会を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に、職員が一方的な決定をするのではなく、個々の能力に合わせて自己決定できるようコミュニケーションを図り活動に活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「これまでの暮らし(入居前、元気だった頃)やその人らしさ」を大切にしたい関わりを持つよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の習慣や意向等に合わせた形で、身だしなみに対する支援を行っている。ご本人の好みの服、お化粧品なども配慮している。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭で行われる行事や、個々の好みに合わせて利用者のリクエストを取り入れながら献立を考えている。個々の能力に応じて、食事作りや盛り付け、配下膳、食器洗いや茶わん拭きなど日々実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録や申し送りにて利用者個々の食事や水分量を把握し、必要な支援を行っている。習慣に応じた代替え食や飲み物の提供により体調不良を引き起こさないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔の他、肺炎の予防のためにも食後の口腔ケアは必ず行っている。必要に応じて歯科往診を受け、歯科衛生士より口腔ケアについて個別援助方法の指導を職員が受けて、日々のケアに活かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録の記入を徹底し、排尿排便ともにパターンを把握して、予測を立ててトイレへの誘導を個別に行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫では、野菜や果物、乳製品を取り入れた献立を行い、水分量のチェックも行っている。利用者個々の体調等にも合わせ、看護と連携を図りながら便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者個々の希望と体調等を考慮して、全利用者が入浴を楽しめるように支援をしている。また入浴中の事故や急変等が起きないように個々に沿った支援を実施。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の習慣や身体状況等を日々の関りの中で観察して、日中に活動と休息を入れることで、夜間、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に看護師が薬に関する情報を介護職員に引き継ぎ、通院報告書等に情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に合わせて、馴染みの習慣を参考に、できることを見極めて支援している。		

ごりょうの丘グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(イチョウユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、自粛が多く、外出はほとんどかなわなかったが、花見などドライブには出かけた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の能力に合わせて、お金を使うことへの支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の意向を確認しながら、電話連絡や手紙のやり取りへの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境(物的・人的)が利用者個々に与える影響を十分に理解し、ソファで眠れるくらいゆったりとした居心地の良いリビングになるよう配慮している。温度や湿度の調節、テレビの音量、移動しやすい広さの確保、職員の利用者への関りなどに工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等、共用空間とは別に、利用者個々に気の合う方と過ごせるような空間を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に「持ち物リスト」をお渡しして、その目的等も十分に説明した上で、馴染みの物を居室にお持ち頂くようお願いをして、心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自立した生活を送れるように、環境面に関して視覚的に働きかける工夫と安全性を保てる配慮を行い、個々の能力に応じて支援している。		

目標達成計画

事業所名 ごりょうの丘グループホーム

作成日：令和 3年 3月 15日

市町村受理日：令和 3年 3月 23日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	26	モニタリングシートの活用状況ならびに内容について、目標の達成度合いや、継続・変更の理由を分かりやすく記入していく必要がある。また、日々の記録も目標項目を意識しながら実践内容や気づきを記録する工夫が必要。	全職員が介護過程を理解して、日々のケアを実践し、モニタリングができるようになる。記録についても、重要性を理解して、モニタリングに活かせる記録が書けるようになる。	①介護過程を法人全体で学ぶ機会を設け、グループホーム全職員が理解できる。 ②日々のケアと記録は、ライフサポートプランに沿って実践し、記録できる。 ③モニタリングシートの活用方法と記入方法が理解できる。	1年
2	4	今年度、運営推進会議の開催はコロナ禍において書面開催が多かった。活発な意見交換のため、報告事項以外にテーマを設定して開催する必要がある。また、ご家族の参加人数が毎回少ない。現在、法人全体で取り組んでいる。	自事業所で責任を持って運営推進会議を開催するとともに、内容もご家族や地域の興味関心のある内容を取り込み、テーマ設定を行う。	①法人内で情報共有し、自事業所で運営推進会議を開催する。 ②令和3年度の運営推進会議において、ご家族の要望やご意見を伺ってテーマを設定する。 ③ご家族の出席率を高めるため、参加しやすい雰囲気を作る。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。